

(2) - 1) ④タゲリ米の販売による水田保全（神奈川県湘南地方・三翠会）

水田に生息する鳥タゲリをシンボルに環境保全と地域づくりに取り組んでいる。タゲリ米や地元のお米で造った焼酎「たげり」など特産品販売と、ビオトープ水田や魚道の設置活動など通じて、地域振興と保全活動の両面で効果をあげている。

またブックレット「ようこそタゲリ米の里へ」による環境教育活動、観察会や米作り等の体験交流活動など幅広い取組を展開し普及啓発に努めている。

a. 取組の背景と経緯

茅ヶ崎市西久保地区は、相模川が運んだ土砂によって形成された沖積低地で、かつての自然堤防の外側は標高1～2mの後背湿地となっている。ここは水田として利用されてきた。この水田地帯を流れる小出川は河川改修によって直線化されたものの、コンクリート護岸されておらず水田と水路で直接つながっていることから、水辺を行き来する水生・湿地生生物に生息場所を提供している。また、水田の土手にはカントウタンポポやワレモコウなどの貴重な在来植物が生息している。このように生物多様性上重要な意味を持つこの地域の水田環境は、周辺が市街化する中で年々重要なものとなっている。

水田を餌場にするタゲリは、冬シベリアから飛来する渡り鳥で「冬の貴婦人」とも呼ばれる代表的な野鳥である。

茅ヶ崎市の市民の自然保護グループ「三翠会」では、この地区の貴重な水田環境を残すため、タゲリをシンボルにした保全活動をスタートさせ、保全と営農振興の両面から取組を行っている。



photo by K.SUZUKI

(国土交通省 横浜国道事務所HP 提供)

写真左：タゲリ（三翠会ホームページより）、写真右：茅ヶ崎市西久保地区周辺の景観（同上）

b. 活用方法

■タゲリ米の販売

タゲリが飛来して採食する安全な田んぼのお米としてブランド化し販売。同会が農家から直接通常よりも高く米を買い上げ、自然保護に気持ちのある顧客に販売している。贈答品やお祝いなどにも利用できる化粧箱入りの米となっており、タゲリ米通信が同封され、活動の近況を知らせているほか、探鳥会のお知らせ等が案内される。

■焼酎「たげり」の開発

茅ヶ崎市寒川の酒屋有志がタゲリ米を用いた「本格米焼酎たげり」を発売し、米のさらなる消費拡大に活用している。

■ブックレットの作成と環境教育・体験交流活動

タゲリをテーマに水田と生物多様性について発信するブックレット「ようこそタゲリ米の里へ」を作成。水田の持つ多面的機能（防災、癒し、生物多様性など）を分かりやすく普及啓発しながら、探鳥会や米作り体験等の環境教育・体験交流活動行う等、水田保全のシンボルとしてタゲリを利用している。



写真左：
タゲリ米パッケージ



写真右：
環境教育用パンフレット

c. 保全活動と野生生物への効果

タゲリ米を中心とする生きものブランドの取組は、地元農家や購入者を中心に広く市民に浸透し、環境省水環境部長表彰（2005年）を受けるなど外部からの評価も高まった。また、2006年度からは3ヶ年間にわたり、「農村自然環境再生活動 高度化事業（農水省）」のモデル地区に指定され、魚道やビオトープなどの設置が進んだ。これにより魚道や休耕田を活用したビオトープが拡充し、ナマズやコイ、フナなどの遡上も確認されるようになった。2012年には関東水と緑のネットワーク拠点に選ばれ、地域を越えた活動の広がりを見せている。

水田やタゲリの減少傾向は現在も続いているものの、タゲリ米の販売拡大と魚道やビオトープ設置による水生生物保全の確実な進展がみられており、今後の継続的な活動展開による保護・保全効果が期待されている。



斜面式魚道



遡上するナマズ 2尾



写真 左上：事業により設置された魚道の例 左下：魚道で遡上が見られた生きもの例
右：三翠会により設置されたビオトープ水田（以上三翠会ホームページより）